

令和 5 年 10 月 25 日現在

機関番号：31304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02242

研究課題名（和文）カンボジアの社会福祉専門職の人材開発-介護職の人材養成・育成の推進システム化-

研究課題名（英文）Human resource development of social welfare professionals in Cambodia-Promotional systematization of human resource training and development of care workers-

研究代表者

赤塚 俊治（AKATSUKA, TOSHIHARU）

東北福祉大学・総合福祉学部・教授

研究者番号：40285656

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：カンボジア王国社会福祉省と国内初となる国立高齢者ケアセンターを設立させた。さらには介護職の人材養成・育成の推進システム化を推進する計画を具体化するために仏教寺院で「高齢者福祉セミナーINプノンペン」の開催と調査を実施し分析を行った。仏教寺院は伝統的に高齢者への生活支援として社会的・人道的支援活動を行っている。社会資源が不足している現状では社会福祉の補完的役割として不可欠である。また高齢者への介護アンケート調査を実施し、ほとんどの者は介護支援が必要であると示唆された。介護職の人材養成・育成には、カンボジア政府は人材養成・育成の推進システム化を図る専門機関を設立することが急務である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国ではカンボジアの社会福祉研究者は僅かであり、そのためか文献や論文が少ない。その点では、「社会福祉学」を専門分野としながら、カンボジアでの研究活動の研究成果を学会や論文で発表してきたことは、カンボジアの社会福祉分野は学術研究として価値ある研究活動であった。今後の社会福祉専門職の確立へ向けた方向性や高齢者も含めた社会福祉制度について具体的な示唆を提示することが出来たことは、学術的にも社会的にも大きな意義があった。とくにボル・ポトによって知識層の大量虐殺は、現在も影響を与えているが、本研究での研究成果は、カンボジア政府が人材育成・養成するための計画に大きな意義をもたらしたと確信している。

研究成果の概要（英文）：Established Cambodia's first national elderly care center jointly with the Ministry of Social Welfare (MoSVY) of the Kingdom of Cambodia. Furthermore, with the aim of systematizing human resource development and implementing plans to promote the development of care workers, a seminar on welfare for the elderly was held at a Buddhist temple in Phnom Penh, a questionnaire was conducted, and the results were analyzed. Buddhist temples traditionally provide social and humanitarian aid activities to assist the elderly with their daily lives. In the current situation where social resources are scarce, it is indispensable as a role to complement social welfare. In addition, when we conducted a questionnaire survey on elderly care for the elderly, it was suggested that most elderly people needed nursing care support. For the Cambodian government, it is an urgent task to establish a specialized organization to systematize human resource development and training for elderly care workers.

研究分野：社会福祉学

キーワード：カンボジア 高齢者 社会福祉専門職 介護職 人材養成・育成システム化

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の補助事業期間は、2019年度から2021年度までの3か年であった。しかし2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症がわが国はもとより世界で拡大し、カンボジア国内でもプノンペンを中心に新型コロナウイルス感染症が拡大した。その為に2021年度のカンボジアでの調査研究活動は中止に追い込まれ、直ちに補助事業期間延長承認申請書を行い承諾されたことで2022年度まで研究活動を実施することができた。カンボジアの社会福祉分野は発展途上にある。とくに高齢者支援に関する社会的サービスは、皆無に等しい。カンボジア政府は「国家高齢者政策-2017-2030」の推進を図っているが、高齢者福祉に伴う社会福祉専門職の人材養成・育成機関は、設立していない現状にある。

2. 研究の目的

カンボジア王国（以下カンボジアと略す）の社会福祉分野を担うカンボジア王国社会問題・退役軍人・青少年更正省(Ministry of Social Affairs, Veterans, and Youth Rehabilitation:以下、カンボジア王国社会福祉省(MoSVY)と略す)とプノンペン高齢者福祉協会からの全面的な協力を得ながら、現在のカンボジア国内の実態を踏まえて研究課題を「カンボジアの社会福祉専門職の人材開発-介護職の人材養成・育成の推進システム化-」とした。カンボジア国内では過去に本格的な研究活動が皆無であったカンボジアにおける社会福祉専門職の人材でも介護職の人材養成・育成するためのシステム化を構築する目的で研究活動を実施した。

3. 研究の方法

カンボジア国内の社会福祉分野を担うカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)の高齢者・退役軍人局(2022年度に高齢者福祉局から局名変更)と何度も打ち合わせを行いながら、本研究目的を理解していただき、研究活動に対しては全面的な協力を得て、高齢者へのアンケート調査や地域住民のアンケート調査及び仏教寺院でのアンケート調査を実施することが出来た。さらにはカンボジア国内の社会福祉職の人材開発-介護職の人材養成・育成の推進システム化を構築するために高齢者・退役軍人局と話し合いを実施し、今後のカンボジアでの介護職の人材養成・育成の推進システム化を構築するための対策として、今後の社会福祉施策に活かすように努力することを局内での政策案件になったが、そのための学習会やセミナーを実施するために社会福祉政策や専門職の人材開発のための協力依頼を受けた。

4. 研究成果

研究成果は、科学研究費助成事業を開始した2019年度から2022年度までの研究経過を時系列に論述する。

2019年8月にはカンボジア王国宗教省と国立仏教研究所の全面的な協力を得て、プノンペン市内にある仏教寺院タンで国内初の「高齢者福祉セミナーIN プノンペン」の開催と調査を実施した。カンボジアの仏教寺院は伝統的に社会的・人道的支援活動として身寄りのない高齢者へ支援が行われ、社会福祉の補完的役割を果たしている。しかし仏教寺院には受入れ人数にも限界があり、何よりも高齢者に対する専門的ケアをする人材がいらないためにお世話をする方は、知識や技能および技術は持ち合わせてはいない。そこで専門職の人材養成・育成を念頭に、今後の仏教寺院の役割として介護に関する専門的知識と技術が必要不可欠であるとの考えから開催に至った。調査票からは高齢者に対するイメージと高齢者への関わりについて分析及び解析を行った。今回の「高齢者福祉セミナーIN プノンペン」の開催と調査の研究目的は、カンボジア国内で社会福祉職の人材養成・育成するための推進システムをいかに構築することができるかを実証研

究として研究活動を実施した。カンボジアでは、高齢者支援の社会資源が不足している現状では、今後も仏教寺院は社会福祉の補完的役割として必要不可欠である。しかしながら介護の専門的ケアを行うためにも僧侶たちへの知識や技能および技術の研修及び専門教育が必要不可欠であると示唆された。アンケート調査の研究成果は、研究分担者である後藤美恵子は2021年6月に開催された日本老年社会科学学会第63回大会(WEB発表)で研究発表を行っている。その発表要旨集の内容を引用すると「僧侶77名対象に実施した。指標は、属性、高齢者政策、高齢者観(馬場ら、1993)項目の表現は寺委員会、寺院と検討し表現をカンボジアの実状に合わせた。平均年齢は48.85±23.96歳であった。政府の高齢者福祉政策の意識と期待のクロス結果では、現政権の意識に関わらず期待している割合は、57.14%であった。一方で、不満足であり期待が持てない割合が10.39%であった。高齢者観の4つの因子構造では、第1因子「老後の不安」否定群と肯定群は中立点であった。第2因子「負担感」、第3因子「死」では否定群がいずれも肯定群を上回った。第4因子「知識・経験」では、肯定群が否定群を上回った。寺院の活動意識では、活動に関する自由記述では肯定的な意見が51件、否定的な意見が6件であった。肯定的な意見では、パゴダ(仏塔)は、身体的、精神的な擁護の義務がある。パゴダは高齢者にとって經典と愛の祈りの落ち着いた場所である。また、高齢者の希望の場所である。以上のような仏教の教えを基底しており、高齢者観の死に対する意識とも関連している。課題として、医療スタッフが不在から適切なケアができない。本来の寺院の役割との乖離が指摘され、改めて寺院の役割が確認された。考察として、カンボジアは社会保障制度が未整備であり、社会福祉政策は財源を含めて確立されていない。退職年金は公務員のみ適用され、国民全体としての老後の生活保障がされていない。そのため、老後における社会福祉の補完的役割を果たしているのが、仏教寺院の人道支援である。今後、高齢者の生活を安定化させるためには、介護支援も含めた高齢者福祉を国家施策として捉えることが重要となる。その背景として、高齢者の生活を支える上で必要な専門的な知識や技術が現在の仏教寺院では十分に保障されていない状況が明らかとなった。僧侶の高齢者に対するイメージでは、尊敬の念では肯定的ではあるが、将来に対する身体的、経済的、身体的な不安感が顕著であったことから、高齢化政策において豊かな知識と経験を有する者として敬愛され、生きる価値を見出せる生活保障が高齢化政策において具体的な方略の検討が示唆された。また、カンボジア国内の社会福祉システムの確立、専門職の人材が必要不可欠であることは、実質的な担い手である僧侶の政府に対する期待の高さからも明らかになった。さらに、カンボジアの伝統として仏教寺院が果たしてきた文化的な思想は有効に機能させていくことの重要性が示唆された。」引用出典:(日本老年社会科学学会第63回大会 演題発表 2021.6.12 から 6.27. WEB発表;発表者:後藤美恵子;演題:カンボジア僧侶の高齢者観-仏教寺院から捉えた高齢者政策の課題-)

さらには研究活動の一環としてカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)との合同会議を何度も実施し、カンボジア初の国立高齢者ケアセンターをプノンペン郊外に開設した。(正式な事業開始日:2020年4月1日) この開設によって、高齢者支援サービスと高齢者福祉制度の確立及び介護職の人材養成・育成の推進システム化を推進していく上では、大きな一歩を踏み出したといえる。なお、プノンペン郊外の農村部で高齢者世帯から生活全般について、聞き取り調査を実施した。

また、2月にはカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)から高齢者福祉制度の草案作成と高齢者ケアセンターの開設に伴う条例草案作成の協力要請を受けてカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)のスタッフと草案作業に携わった。

2020年度は、カンボジアで初めて高齢者福祉施設として開設した「国立高齢者ケアセンター」で職員と利用者に対するアンケート調査を実施する予定でいた。その調査研究目的は、今後の介

護職員の人材養成・育成の推進システム化を開発するために、教育方法と教育環境を確立するための糸口を探求し、カンボジア王国社会福祉省(MoSVY)と連携しながら、カンボジア国内の社会福祉専門職の人材開発につなげることであった。しかし、2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症がカンボジア国内でもプノンペンを中心として新型コロナウイルス感染症が拡大したことで、上述した調査研究活動が中止に追い込まれてしまった。その為に補助事業期間延長承認申請書を行い、承諾されたことで2022年度まで研究活動を実施することが可能になり、2020年度の調査研究は、2021年度に変更することとした。研究分担者である後藤美恵子は日本老年社会科学学会第62回大会(紙上発表:2020.6.6から6.7)で「カンボジアにおける社会福祉専門職の養成に関する検討-仏教寺院の社会的役割と介護福祉人材の可能性-」とする演題で研究発表を行った。

2021年度は、これまでの研究成果を踏まえながら、研究課題をさらに探求するための計画を進めていた。ところが世界的規模で拡大した新型コロナウイルス感染症は、一向に収束しないために、予定していたカンボジア初の国立高齢者ケアセンターでの調査研究活動や独居高齢者への聞き取り調査を実施することはできなかった。そのために文献研究を中心としたカンボジア国内の高齢者に対する介護状況や介護職専門教育のあり方および社会福祉専門職の人材開発につながるシステムについて推考してきた。さらには過去にカンボジア国内で実施してきた研究活動での調査研究成果を学会で発表した。今後の調査研究活動を実施するためにカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)と連絡を密に取りながら、調査研究活動の内容の確認と現地での支援体制の約束を再確認していたが、日本政府及びカンボジア政府の出入国規制制限が緩和されたことで出張が可能になったために2021年3月にプノンペンへ渡航した。渡航目的は、研究代表者である赤塚が現地の状況を把握し、2022年9月に実施予定である調査研究計画を準備するためにカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)で話し合いを実施した。会議の結果として、カンボジア王国社会福祉省(MoSVY)が全面的に協力することになった。また、この会議で国立高齢者ケアセンターでは、当分の間、高齢者の利用を控えることにして、職員の研修センターとしての位置づけにすることであった。そのため当初、検討していた国立高齢者ケアセンターの職員と利用者へのアンケート調査などは変更することにした。なお、研究分担者である後藤美恵子は、関連文献(図書)に拙稿して2022年2月に共著で大阪大学出版会から出版した。さらには、後藤美恵子は日本老年社会科学学会第63回大会(2021.6.12から6.27.WEB発表)で「カンボジア僧侶の高齢者観-仏教寺院から捉えた高齢者政策の課題-」とする演題で研究発表を行った。

2022年度は、介護職の人材養成・育成の推進システム化を推進していく上では、高齢者が抱えている生活問題、家族問題、社会支援問題、身体的・精神的問題などの実態を把握し、研究活動に活かされる事案を理解することは不可欠で。そのためにカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)の全面的な協力を得て、プノンペン高齢者福祉協会のホールで60歳以上の高齢者を集め、アンケート調査を実施した。アンケート調査では、社会福祉省(MoSVY)のスタッフとプノンペン高齢者福祉協会のスタッフが対面方式で調査項目に沿って確認しながらチェックを入れながら正確性を確保した。プノンペン高齢者福祉協会のホールに集まった高齢者は、85名であった。当初、計画していた調査人数は150名であったが残りの65名分は、社会福祉省(MoSVY)のスタッフが住んでいる地域でアンケート調査を実施した。現在は、150名の調査内容を分析しているが、共通していることは何らかの介護を必要としていることである。とくに独居生活をしている高齢者は、生活問題として金銭的余裕がなく介護を必要としていることが明らかになった。

今回の調査研究活動を実施するためにカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)と連絡を密に取りながら、調査研究活動の内容の確認と現地での支援体制の約束を再確認した。カンボジア滞在中は、

農村部においても高齢者への聞き取り調査を実施した。

(総括)

介護職の人材養成・育成の推進システム化を推進する計画を具体化するために仏教寺院で「高齢者福祉セミナーIN プノンペン」の開催と調査を実施し分析を行った。仏教寺院は高齢者への生活支援として社会的・人道的支援活動を行っている。社会資源が不足している現状では社会福祉の補完的役割として必要不可欠である。また高齢者への介護アンケート調査を実施し、ほとんどの高齢者は介護支援が必要であると示唆された。介護職の人材養成・育成には、カンボジア政府は人材養成・育成の推進システム化を図る専門機関を設立することが急務である。

本研究課題である介護職の人材養成・育成の推進システム化を早急にカンボジア王国社会福祉省(MoSVY)が主導的立場からカンボジア国内で具体的に推進することが重要課題であることがアンケート調査から明らかになったと確信することができた。今後も詳細にアンケート調査を分析し、さらなる分析結果を解明することによって、カンボジア王国社会福祉省(MoSVY)や関係省庁機関に介護職の人材養成・育成の推進システム化を図るための提言を行いながら、所属している国内の学会などで研究成果を発表する。また、本研究活動の研究成果の結果として、わが国の研究者からカンボジアの社会福祉研究を行う研究者が増えることを期待したい。今後も継続的に研究活動を展開し、わが国はもとよりカンボジアに対して、少しでも研究成果が社会的に貢献できるように日々精進する決意である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 後藤美恵子
2. 発表標題 カンボジア僧侶の高齢者観 - 仏教寺院から捉えた高齢者政策の課題
3. 学会等名 第63回日本老年社会科学会2021年6月12.日～13日,Web開催
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤美恵子
2. 発表標題 カンボジアにおける社会福祉専門職の養成に関する検討 - 仏教寺院の社会的役割と介護福祉人材の可能性
3. 学会等名 第62回日本老年社会科学会 (誌上発表)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤塚俊治
2. 発表標題 カンボジアの「国家高齢化政策2017-2030」に関する一考察 - 専門職の人材養成・育成の推進システムを中心として -
3. 学会等名 第67回日本社会福祉学会秋季大会(大分大学旦野原キャンパス：大分県大分市)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤美恵子
2. 発表標題 ベトナムの人口構造と農村部高齢者の関連 - 経済発展による人口移動と地域機能
3. 学会等名 第61回日本老年社会科学会（東北福祉大学：宮城県仙台市）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤美恵子
2. 発表標題 現代ベトナムにおける農村部高齢者を取り巻く課題 - 人口構造と地域機能の相互性
3. 学会等名 第67回日本社会福祉学会秋季大会(大分大学旦野原キャンパス：大分県大分市)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 後藤美恵子 (渡辺 長編 その他11名)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 外国人介護士と働くための異文化理解	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	後藤 美恵子 (GOTOH MIEKO) (50347902)	東北福祉大学・総合福祉学部・准教授 (31304)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------